

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（１）大学・学科の設置理念

①大学

「立学の精神」

本学院の教育は、建国の理想に遵い、平和的な国家及び社会の形成者として、高い知性と善美な情操と高雅な徳性とを兼ね備えた有為な女性を育成する。特に女子総合学院の特質に鑑み、一貫教育の方針を堅持し、わが国女性の伝統的美風を尊重して、その民族的使命を自覚するとともに、個性豊かな文化を創造して、新日本の建設に貢献し得るべき女性の養成を期しその使命達成のために学園を挙げてその力を致す。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

文学部歴史文化学科は、日本の歴史文化を多面的に学ぶことを通して、幅広い視野と豊かな人間性を育み、論理的な思考力と積極的な実践力を養成して、バランスのとれた人格を形成することを目指す。現代日本社会の歴史的形成を理解したうえで、多元的な歴史認識に立って未来社会を創造する優位な女性を育成する。科学的なエビデンスに立脚して事象を批判的に検証する過程で、的確な課題発見力と高度な論理的、客観的表現力を養うことを目的とする。

（２）教員養成に対する目標・計画

①大学

(1)学院の立学の精神に立脚した教職実践力を体し、グローバル化する社会の新しい要請に応えるとともに日本国憲法・教育基本法・学校教育法等に規定されている教育理念とそのシステムを実践的に支え、次代を担う子ども達にその自立へ向けて“自他ともに学びあい・生かしあう力”を育むことのできる「幼稚園・保育所（園）・認定こども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員（保育士・保育教諭を含む）・栄養教諭」の養成を社会的使命として遂行し、人・家庭・社会に貢献できる人材を育成する。

(2)学院立学の精神に立脚した教職実践力とは、“高い知性”と“善美な情操”と“高雅な徳性”とを兼ね備え、これらの資質・能力を幼児・児童・生徒等に対して、それぞれの学校教育段階において創造的に育むことのできる教員又は保育士としての実践力である。

(3)上記(1)(2)に示す本学教員養成の理念の具現化へ向けて、学院立学の精神はじめ教育綱領・教育目標・教育推進宣言について理解を深めるとともに、自立した教員を送り出すべく、女子総合学院の特質を生かし、“未来を担う子ども達の主体性・論理性・実行力を培う”教員・保育士の養成を「一貫して」推進する。その実質的具現化のため、これらの養成に携わる全教職員は、一致団結して改革・改善に取り組む。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

文学部歴史文化学科の教育課程は、日本歴史の各時代（古代・中世・近世・近現代）を中心とし、さらに隣接領域（地理学、人類学、民俗学、考古学、言語学、文化史、技術史、地域史）を加えて、多面的な学びを実現する。とりわけ、史料を読み解くうえでの的確な技術を習得させ、歴史文化研究の基礎を正しく身につけたうえで、体験的な学修によって知識の体系化を図るものとする。

中学校教諭社会科免許状および高等学校教諭地理歴史科免許状を取得しようとする者は、本学科における学修の目的と目標を十分に理解し、歴史・地理および関連領域に関する高度で先端的な知識を身につけ、つねに学究的態度を保持するとともに社会・歴史に対する公平かつ客観的な視点を確保して、最終的には修得した知識を学校教育に実践的に活用する方法について主体的に考察できる水準に達していなければならない。

そのために、まずは1年次必修科目である「初期演習」において教職の意義や学校教育の目的について

理解させ、教職を目指す学生にはモチベーションの確立を図る。専門教育科目では、それぞれの扱う学問的課題に加え、学校教育における教育実践を念頭に置きつつ、歴史事象を教材として扱うことの方法や問題点を理解させるようにする。教科に関する専門的事項の科目として指定した授業科目だけでなく、あらゆる授業科目、とくに文献・遺物・工芸作品等史料の読解・批評においては、学校教育との関係を意識しながら、偏りのない広い視野と知識を習得させ、学年進行に応じて社会科および地理歴史科教育の実践力を段階的に高めてゆくように配慮する。フィールドワーク科目においては、地域文化の特性を体験的に理解し、地域の学校とも連携しながら、地域学習の課題を学ぶ機会とする。

（３） 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

歴史文化学科では、日本の歴史および日本文化を通時的かつ体系的に深く理解すると同時に、他国の歴史・文化との関連性を正しく認識することを目的のひとつに据える。本学が立地する阪神間とその周辺を起点としながら、日本各地の文化・地理に考察の目を及ぼし、時間・空間を超える他者に対して公正に接することのできる態度を養って、実践的な分析力と発進力を身につけていく。本学科が準備する教育課程は、歴史・地理および文化に則して専門的知見を有し、芸術・美術・地域政策等にも関心を向け、情報機器の操作にも習熟した教員を養成することができるものである。現代社会の諸問題に関心を向け、自ら課題を発見して、論理的に思考し解決へと導いてゆく能力は、フィールドワークや演習によって培われる。

ここでの学修研究を通して、中学校教諭一種（社会）課程にあつては、地理的分野、歴史的分野、公民的分野のそれぞれにおける教育内容に対応するための基礎的知識および資質を養成する。とりわけ、文化の多面性・多様性を理解し、学習者に主体的な学びを促すことができる教育実践者の育成を目指す。

高等学校教諭一種（地歴）課程にあつても、世界のなかにおける日本および日本文化の位置や特質を把握し、現代文化の形成過程およびそこに見出される歴史的必然性を洞察したうえで、教育現場において主体的・対話的な深い学びを実践しうる人材の育成を目指す。

様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

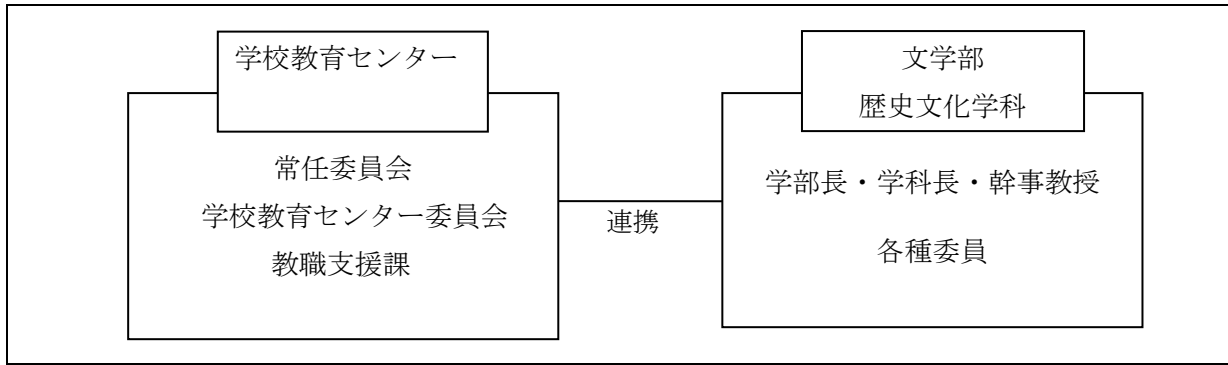
組織名称:	学校教育センター
目的:	本学院の「立学の精神」「学院教育綱領」を踏まえ、「教育目標」の実現に向けて、「教育推進宣言」に掲げた“主体性・論理性・実行力”を培う女子教育を推進する。 1. 質の高い教員・保育士(保育教諭含む)を養成する体制を全学的に組織するとともに、現職の教員・保育士などの研修体制の組織化をめざす。 2. 教員・保育士の実習、採用、研修に関連して、関連教育委員会や保育課、学校園・児童福祉施設などとの連絡を密にし、連携をめざす。 3. 教員・保育士の養成、採用、研修に関連する基礎データを整備しこれを分析することによって、採用状況の変化に対応できる体制を整える。
責任者:	センター長
構成員(役職・人数):	センター長、副センター長(3)、常任委員(5)、特任教授(5)、学校教育センター委員(14)、教職支援課長、教職支援課事務職員 合計 35 名
運営方法:	・常任委員会および学校教育センター委員会を隔週水曜に月 2 回のペースで実施し、教職課程に係る次事項(教職課程運営の基本方針及び組織に関する事項、教職課程カリキュラムと担当者に関する事項、教職課程履修指導に関する事項、教員養成理念・カリキュラムマップ・履修モデル・シラバス・履修カルテ等、教職課程履修に関する説明会やガイダンス、教員就職支援、実習等に係る対応と指導、教育実習及び教職実践演習の履修要件と履修判定)等について、原案の作成、審議・協議・連絡・報告等を行う。審議・協議し、合意した内容は学校教育センター委員が各学科に持ち帰って周知し、各学科の意向による新たな課題があれば委員会にて協議する。 ・事務職員は、実習関係の事務手続きを始め、時間割作成・履修カルテ・免許取得判定・教員免許一括申請、教員就職支援などに関する事務を行うとともに、教員と連携して説明会やガイダンスの実施、履修相談、実習中の対応などを行う。また、委員会の資料作成や、決定事項の実施をすすめる。

②

組織名称:	文学部歴史文化学科
目的:	日本の歴史文化を多面的に学ぶことを通して、幅広い視野と豊かな人間性を育み、論理的な思考力と積極的な実践力を養成して、バランスのとれた人格を形成することを目指す。歴史文化に専門的知見を有し、実践力を備えた社会科・地理歴史科教員を養成する。
責任者:	学部長
構成員(役職・人数):	学部長、学科長、幹事教授、学科所属教員 計 9 名
運営方法:	月1回定例の学科会議を開催し、教員養成に関わる予算・人事・カリキュラム・学生指導等、学科の運営と学生の支援を中心とした協議・検討を行う。教育に関する内容については、学科内に教育課程検討会を設置し、よりよい教育のあり方について学科長、幹事教授、教務委員等が具体的な検討を行う。教職課程履修学生に対する学習面の支援については、学校教育センター委員が中心的役割を担い、クラス担任、ゼミ指導教員と連携しながら、一人一人が抱える問題点を把握し、進路希望に応じた支援をきめ細かく実施する連携体制を整える。

(2) (1)で記載した個々の組織の関係図

様式第7号イ



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

- ・自治会での鳴尾老人大学への教員派遣、学校等への出前授業や高大連携授業を通じて、学校や地域社会と連携・協力している。
- ・教育委員会との人事交流についても、教育委員会職員の大学教員への起用の他、大学教員が各市町村の委員会委員の任務に就く等の人事交流がある。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称:	学校園ボランティア活動
連携先との調整方法:	・教育委員会や学校園からの依頼を受けてボランティアの紹介を行い、学生に推奨している
具体的な内容:	・週1回以上など継続的なボランティア活動 ・学校園(保育所・施設等含む)での教員の補助、学習指導補助など受入先の希望により様々な内容で活動

Ⅲ. 教職指導の状況

- ・入学時に実施するオリエンテーションでは、教職課程のカリキュラムや履修について学科で詳細に説明している。また、教職を希望する学生に対して、学校教育センターが教職課程履修の手続きや履修方法などについて詳細に説明をおこなっている。
- ・教職課程履修者には、履修モデル及び履修カルテにより、教職課程履修者自らが自己評価と履修履歴の確認を行いつつ、堅実に教職への道を歩み続けるよう定期的に授業担当教員が指導している。また、(1)の組織で各学科に周知された内容は、各学科の学校教育センター委員及びクラス担任やゼミ指導教員を通して学生に周知され指導される。
- ・学校教育センターでは、教職課程に係る全学的履修指導、教職課程カリキュラムの編成、教職課程シラバスや履修カルテの運用、教育実習実施に関する業務など、(1)①で記載した内容の業務を行っており、それらに係る説明会やガイダンスを定期的の実施し、学生への指導を強化するとともに、日常的に履修から教員採用試験に至るまで学生からの教職に関する様々な質問や相談に対応している。
- ・教員採用試験等対策としては、教育委員会による採用試験受験説明会の実施、合格者による試験対策の勉強方法や、教職現場で活躍する卒業生の話を聞く会などを実施するほか、教員採用試験を受験する全学生に対して、学校教育センターの特任教授や各学科の教職担当教員が中心となって採用試験対策講座を実施している。
- ・学校教育センターがある学校教育館には、各都道府県の問題集や教員採用に関する書籍や雑誌を設置して、勉強しやすい環境を整えている。また、日頃から、各教員が進路相談にも随時対応し、教員就職に向けて開かれた体制をとっている。

様式第7号ウ

＜歴史文化学科＞（認定課程：中一種免(社会)）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	①中高教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②教職並びに中高教職課程の特質と概要を理解する。 ③中学教科「社会」を教授するに足る基礎的知識および技能を、基礎教育科目・専門教育科目の学習を通じて修得する。
	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②学習者の心理と学習のメカニズム(発達と障害を含む)に関する基礎的知識を修得する。 ③中学教科「社会」を教授するに足る基礎的知識および技能を、基礎教育科目・専門教育科目の学習を通じて修得する。
2年次	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を包括的に修得する。 ③人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。 ④中学教科「社会」に関わる原理と教科内容およびその指導方法についての基礎的知識と技能を修得する。併せて、中学教科「社会」を教授するに足る基礎的知識および技能を、専門教育科目群、とりわけ「歴史文化研究の基礎」科目群に該当する授業科目の学習を通して修得する。
	後期	①道徳教育および人権教育の目的・内容・方法等について、実践の観点から理解する。 ②一人一人の生徒の人格を尊重した生徒指導や、生徒の意欲や適性を考慮した進路指導に必要な知識・技能を身につける。 ③情報通信技術(ICT)の活用と理論を理解する。 ④中学教科「社会」指導法の基礎知識を修得し、指導案の作成と模擬授業とを通して、授業実践力を身につける。併せて、中学教科「社会」を教授するに足る基礎的知識と技能を、専門教育科目群、とりわけ「歴史文化研究の基礎」「歴史文化の諸相」科目群に該当する授業科目の学習を通して修得する。
3年次	前期	①カウンセリングを含め、教育相談の理論と方法を、実践的な観点から理解する。 ②特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法・学級経営等に関する基礎的・実践的知識と技能を修得する。 ③これまで修得してきた歴史、地理、文化の専門領域における知識と中学教科「社会」の内容との関連性について、自主的に探究する方法を身につける。
	後期	①総合的な学習・探究及び特別活動の意義を理解し、その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を身につける。 ②教育実習の目的や計画・内容等を理解する。 ③これまで修得してきた歴史、地理、文化の専門領域における知識と中学教科「社会」の内容との関連性について、より深く自主的に探究する方法を身につける。
4年次	前期	①教育に関する理念・思想・歴史を中心に、それらの基礎的知識を修得する。 ②教育実習生は、教育実習体験を通して、教職の使命感や責任感、実践力を修得し、教職に必要な資質能力を形成する。 ③これまで蓄積してきた歴史、地理、文化の専門領域における知識と中学教科「社会」の内容とを有機的に関連させ、質の高い教育実践を目指す意識と態度を身につける。
	後期	①「教職実践演習(中高)」を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志望を再確認する。 ②これまでに蓄積してきた歴史、地理、文化の専門領域における知識と中学教科「社会」の内容とを有機的に関連させ、質の高い教育を実現することのできる意識と自信を確立する。
	通年	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めるとともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・実践的知識技能を修得する。 ②教育実習の事後指導を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を確認する。

様式第7号ウ

<歴史文化学科> (認定課程: 高一種免(地理歴史))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	①中高教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②教職並びに中高教職課程の特質と概要を理解する。 ③高校教科「地理歴史」を教授するに足る基礎的知識および技能を、基礎教育科目・専門教育科目の学習を通じて修得する。
	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②学習者の心理と学習のメカニズム(発達と障害を含む)に関する基礎的知識を修得する。 ③高校教科「地理歴史」を教授するに足る基礎的知識および技能を、基礎教育科目・専門教育科目の学習を通じて修得する。
2年次	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を包括的に修得する。 ③人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。 ④高校教科「地理歴史」に関わる原理と教科内容およびその指導方法についての基礎的知識と技能を修得する。併せて、高校教科「地理歴史」を教授するに足る基礎的知識と技能を、専門教育科目群、とりわけ「歴史文化研究の基礎」科目群に該当する授業科目の学習を通して修得する。
	後期	①道徳教育および人権教育の目的・内容・方法等について、実践の観点から理解する。 ②一人一人の生徒の人格を尊重した生徒指導や、生徒の意欲や適性を考慮した進路指導に必要な知識・技能を身につける。 ③情報通信技術(ICT)の活用と理論を理解する。 ④高校教科「地理歴史」指導法の基礎知識を修得し、指導案の作成と模擬授業とを通して、授業実践力を身につける。併せて、高校教科「地理歴史」を教授するに足る基礎的知識と技能を、専門教育科目群、とりわけ「歴史文化研究の基礎」「歴史文化の諸相」科目群に該当する授業科目の学習を通じて修得する。
3年次	前期	①カウンセリングを含め、教育相談の理論と方法を、実践的な観点から理解する。 ②特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法・学級経営等に関する基礎的・実践的知識と技能を修得する。 ③これまで修得してきた歴史、地理、文化の専門領域における知識と高校教科「地理歴史」の内容との関連性について、自主的に探究する方法を身につける。
	後期	①総合的な学習および特別活動の意義を理解し、その特質を踏まえた指導に必要な知識、および技能を身につける。 ②教育実習の目的や計画・内容等を理解する。 ③これまで修得してきた歴史、地理、文化の専門領域における知識と高校教科「地理歴史」の内容との関連性について、より深く自主的に探究する方法を身につける。
4年次	前期	①教育に関する理念・思想・歴史を中心に、それらの基礎的知識を修得する。 ②教育実習生は、中高教育実習体験を通して、教職の使命感や責任感、実践力を修得し、教職に必要な資質能力を形成する。 ③これまで蓄積してきた歴史、地理、文化の専門領域における知識と高校教科「地理歴史」の内容とを有機的に関連させ、質の高い教育実践を目指す意識と態度を身につける。
	後期	①「教職実践演習(中高)」を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志望を再確認する。 ②これまでに蓄積してきた歴史、地理、文化の専門領域における知識と高校教科「地理歴史」の内容とを有機的に関連させ、質の高い教育を実現することのできる意識と自信を確立する。
	通年	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めるとともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・実践的知識技能を修得する。 ②教育実習の事後指導を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を確認する。

様式第7号ウ（教諭）

＜歴史文化学科＞（認定課程：中一種免(社会)）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	C	教職入門	日本史概説		日本国憲法	文化と民族
					日本史料概説		Oral Communication	考古学概説
					女性史概説		情報リテラシー	食の文化誌
					日本美術史			地域社会論
					法律学			観光文化論
					人文地理学			
	後期	2	B	教育原理	自然地理学		スポーツと栄養	文化・歴史研究と情報
		2	D	教育行政学	経済学			歴史文化フィールドワーク基礎
		2	E	教育心理学	日本思想史			文化人類学概説
2年次	前期	1	A	社会・地歴科指導法Ⅰ	地理学概説		スポーツ実技(軽スポーツ)	縄文・弥生の考古学
		2	E	発達心理学	日本古代史史料を読むⅠ			歴史のなかの女性
		2	G	教育課程総論	日本中世史史料を読むⅠ			日本の生活文化
		3	Q	教育方法の理論と実践	日本近世史史料を読むⅠ			
					日本近現代史史料を読むⅠ			
	後期	1	A	社会・地歴科指導法Ⅱ	地誌学			古記録と古文書
		3	H	道徳教育指導論				古墳・中近世の考古学
		3	LN	生徒指導・進路指導				装いの日本文化
		3	R	ICT活用の理論と実践				
3年次	前期	1	A	社会・地歴科指導法Ⅲ	東洋史			古代史研究の方法と課題
		2	F	特別支援教育論	西洋史			近世史研究の方法と課題
		3	M	教育相談の理論と方法	地理と情報			くらしと言語景観
					社会学			
	後期	1	A	社会・地歴科指導法Ⅳ	近代の世界史			古代中世の都市と交通
		3	IJ	総合的な学習の時間と特別活動	倫理学			中世史研究の方法と課題
		4		教育実習事前指導(中高)	信仰の民俗学			近現代史研究の方法と課題
4年次	前期	2	B	教育史	地域政策論			
		4		教育実習Ⅰ・Ⅱ(中高)				
	後期	4		教職実践演習(中高)				文化遺産論
	通年	4		教育実習事前事後指導(中高)				

様式第7号ウ（教諭）

＜歴史文化学科＞（認定課程：高一種免（地理歴史））（2）

具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	C	教職入門	日本史概説		日本国憲法	文化と民族
					日本史料概説		Oral Communication	考古学概説
					女性史概説		情報リテラシー	食の文化誌
					日本美術史			地域社会論
					人文地理学			観光文化論
	後期	2	B	教育原理	自然地理学		スポーツと栄養	日本思想史
		2	D	教育行政学				文化・歴史研究と情報
		2	E	教育心理学				文化人類学概説
2年次	前期	1	A	社会・地歴科指導法Ⅰ	地理学概説		スポーツ実技(軽スポーツ)	縄文・弥生の考古学
		2	E	発達心理学	日本古代史史料を読むⅠ			歴史のなかの女性
		2	G	教育課程総論	日本中世史史料を読むⅠ			日本の生活文化
		3	Q	教育方法の理論と実践	日本近世史史料を読むⅠ			
					日本近現代史史料を読むⅠ			
	後期	1	A	社会・地歴科指導法Ⅱ	地誌学	道徳教育指導論		古記録と古文書
		3	LN	生徒指導・進路指導				古墳・中近世の考古学
		3	R	ICT活用の理論と実践				装いの日本文化
3年次	前期	1	A	社会・地歴科指導法Ⅲ	東洋史			社会学
		2	F	特別支援教育論	西洋史			古代史研究の方法と課題
		3	M	教育相談の理論と方法	地理と情報			近世史研究の方法と課題
	後期	1	A	社会・地歴科指導法Ⅳ	近代の世界史			信仰の民俗学
		3	IJ	総合的な学習の時間と特別活動				中世史研究の方法と課題
		4		教育実習事前指導(中高)				近現代史研究の方法と課題
4年次	前期	2	B	教育史				
		4		教育実習Ⅰ・Ⅱ(中高)				
	後期	4		教職実践演習(中高)				文化遺産論
	通年	4		教育実習事事後指導(中高)				